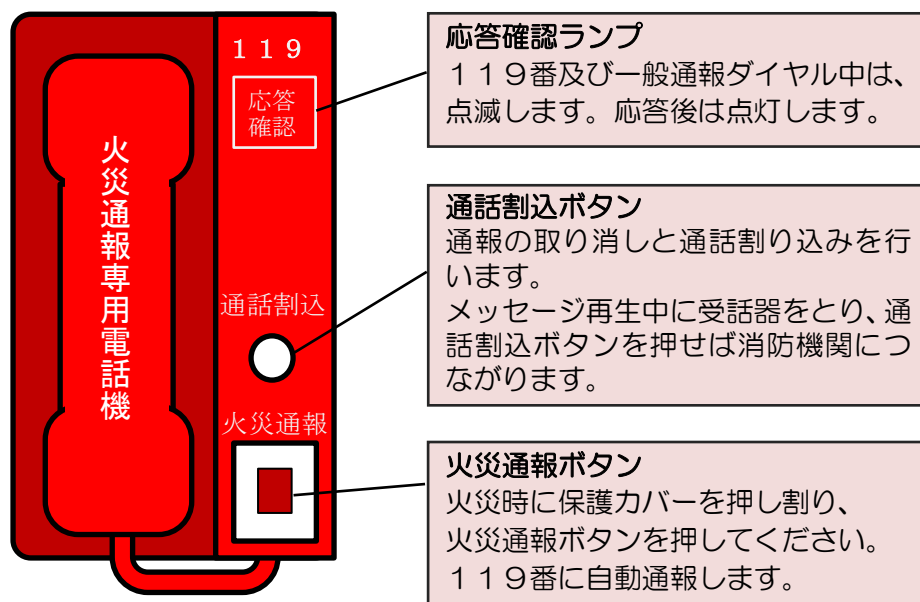
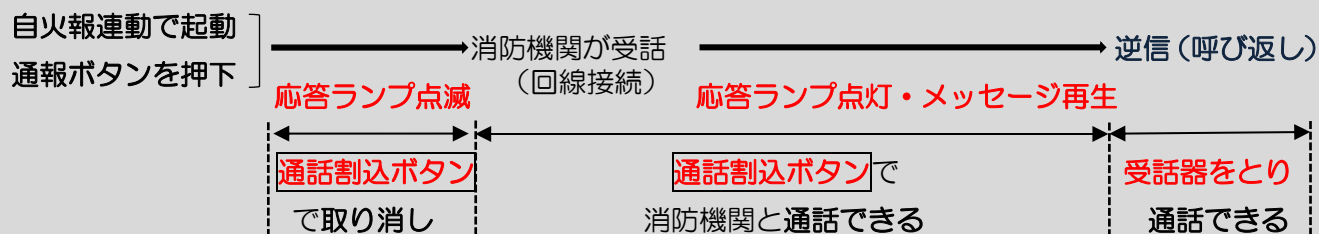


火災通報装置の概要



《消防機関の対応》

- 消防機関は、電話での119番通報と同じ要領で受信し、メッセージにより自動通報であることを把握します。
- 消防機関はメッセージを聞き終えた後、逆信（呼び返し）を行いますが、呼び出しに出なければ回線を切断します。
- この消防機関からの逆信（呼び返し）の信号を火災通報装置が受けることによって、機器の119番通報（自動通報）の一連の動作が終了します。

火災であることを確認した場合

- 自動火災報知設備連動で火災通報装置が作動した後、**火災**であることを確認した場合は、**火災通報ボタンを押す**ことによって**延焼中**であることがメッセージにより消防機関に伝わります。
- 受話器による消防機関との通話は、以下の方法以外はできませんのでご注意ください。
 - メッセージ再生中に受話器をとり、通話割込ボタンを押す。
 - 消防機関からの逆信（呼び返し）時に受話器をとる。

非火災であることを確認した場合

消防機関に以下の方法のいずれかにより、状況を伝えてください。

- メッセージ再生中は受話器をとり、通話割込ボタンを押す。
- 消防機関からの逆信（呼び返し）時に受話器をとる。
- 電話で119番通報する。

火災通報装置（自動火災報知設備連動） 作動時マニュアル

ベル鳴動

① 感知器発報等・火災通報装置の作動

② 火災の有無を確認

- ・受信機の地区表示灯と警戒区域図を照合し、発報場所を確認
- ・消火器を携行して、現場を確認

③ 消防機関からの逆信（呼び返し）

逆信時に受話器をとって通話が可能

※逆信には支障のない範囲で応答し、初期消火・人命救助を優先すること
(呼び出しに出なければ回線は切断される)

火災の場合

- 119番通報（「火災通報ボタン」の押下）
- 初期消火
- 避難誘導（あれば非常放送を活用）
- 在館者の確認 等

非火災の場合

- ・メッセージ再生中⇒「通話割込ボタン」を押下
- ・逆 信 時⇒受話器をとる
- ・回 線 遮 断 後⇒電話で119番通報
して消防機関に状況を伝える

受信機の地区音響停止スイッチを押下
(非火災の確認前にベルを止めない)

※再鳴動方式の受信機は、一定時間経過後に再度鳴動します

発報した感知器 or 発信機 を復旧する

感知器の場合



周囲の状況確認、応急措置（換気等）により作動原因を取り除く

発信機の場合



押しボタンを
引き戻す

受信機の火災復旧スイッチを「復旧」にする
(非火災の確認前に復旧しないこと)

感知器が特定できない場合は、消防隊が確認する
まで復旧操作はしない (音響停止のみ実施)

屋内消火栓連動の場合

防火戸・防火シャッター
連動の場合

屋内消火栓ポンプ停止

巻き上げ、押し戻し

